



3月31日スキー交流会にて

バイアスロン女子日本代表

古谷沙理選手

「皆さんの応援がパワーになりました」

平昌冬季五輪に出場して

バイアスロン競技日本代表として平昌冬季五輪に出場した古谷沙理選手（自衛隊体育学校）。故郷倶知安町で、現在の心境を語りました。

——平昌冬季五輪が閉幕しておよそ2カ月が経ちました。感想を聞かせてください。

「バイアスロンだからこそ『走り』と『射撃』すべての条件がかみ合えば、何か面白いことを起こせるのではないかと思っていました。しかし思うような結果を残せなかったことで、世界の厳しさを実感しています」
——五輪ではどのような思いで試合に臨んだのですか。

「バイアスロンは欲を出しすぎると射撃に苦戦するので、できるだけ『いつもどおり』を心がけ、自分の

持っている実力を発揮したいと思っていました」

——倶知安町の皆さんからの応援は平昌に届きましたか。

「はい。皆さんの応援がとても大きな力になったと思います。また、それは試合のときだけではなく、練習で苦しいときや辛いときにも励みになっていると感じます」

——今回、古谷選手が出場したことで五輪を身近に感じた子どもたちがたくさんいると思います。日々スキートの練習に励む子どもたちへメッセージをお願いします。

「この町からオリンピックに出場することは不可能ではありません。皆さんには勝つことだけにこだわらず、スキーを楽しんでもらいたいです。そのことが皆さんの家族や周りの人の喜びに繋がると 생각합니다」

——最後に、古谷選手を応援している倶知安町の皆さんにメッセージをお願いします。

「私がオリンピックに出場できたのは、これまで支えて応援してくれた皆さんのおかげだと思っています。皆さんからたくさんパワーをいただきました。本当にありがとうございます。これからも応援をよろしくお願いします」

地元の子どもたちとふれあう

3月31日（土）に、旭ヶ丘スキー場周辺にて後志管内クロスカントリースキー少年団等連絡協議会の主催による平昌冬季五輪の出場報告会を兼ねたスキー交流会が行われ、倶知安クロスカントリースキー少年団員やその保護者をはじめとする約50人が集いました。

この日は、古谷選手のほか赤井川村出身の3選手が来町し、技術指導のほかスキーを通じた交流などを行いました。子どもたちと保護者は、旭ヶ丘スキー場内に設置されたスラロームやウェーブなどさまざまな要素が組み込まれたコースでトライアルレースを行い、順位を競い合いました。その中で、古谷選手が軽快な滑りを見せると会場からは「速い!」「さすが!」などと歓声が上がっており、レース終了後に古谷選手は、「今回やってみて自分が苦手だと感じた箇所を今後重点的に練習してほしい」と話していました。

その後は会場を雪ん子館に移し、五輪出場報告会が行われ、平昌での体験談やビンゴ大会などで盛り上がり、最後に参加者全員で記念撮影をしました。